

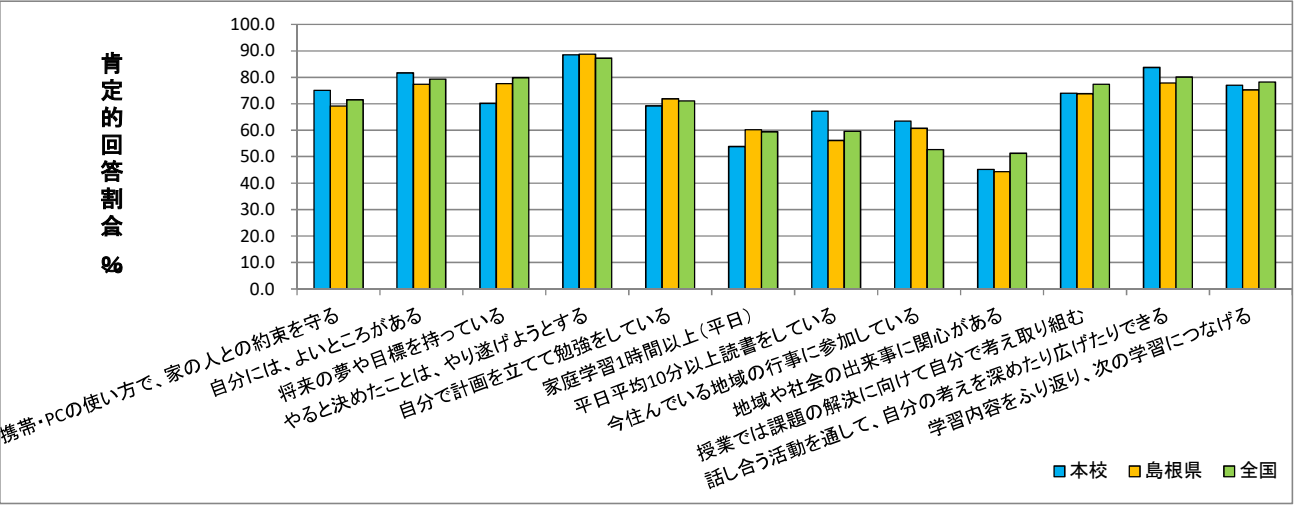
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○多くの問題で正答率が全国平均を上回っていて、基本的な国語力が定着している。話すこと・聞くことに関する問題がよかったことは、「伝え合い」を意識して取り組んできた成果が感じられる。 ●文章全体の構成や展開を考えて書くことが、昨年に続いて苦手としている。	・昨年から取り組んでいる対話タイムを継続し、さらに話す楽しさを感じられるようにすることと、各教科の「伝え合い」の活動を充実させていく。 ・各学年の「書く」単元を丁寧に学習し、低学年から文章の組み立てを意識しながら書いたり読んだりする力をつけていく。
算数	○前回課題としてあがっていた図形領域では、図形の性質や構成の仕方についての理解がよくなってきた。 ●全体的に思考力を問う問題の正答率が低かった。基礎的な力を活用して主体的に問題に取り組むことに課題が見られる。	・問題文の読み取りが正しくできるように、ふだんから教科書やノートに線を引いたり、大事な言葉に印や書き込みをしたりする習慣をつけ、自分で手がかりを見つけられるようにしていく。 ・自分で考える時間をしっかりとってから、考えを説明し合う活動を取り入れて、いろいろな考え方に触れさせていく。
理科	○多くの問題で正答率が全国平均を上回っていて、理科の知識を身に付けることができている。特に、実験道具についてはよく理解できていて、体験活動が生きていることがうかがえる。 ●観察や実験結果をもとに、自分の考えをもつことがやや苦手な傾向がある。	・観察や実験では、手順を丁寧に示し、確実に活動ができるようにし、予想と結果を比べて一人一人が自分の考えをもつ時間を確実に設定していく。 ・学習したことが身の回りの事象と結び付いて、さらに興味が広がっていく工夫をしていく。

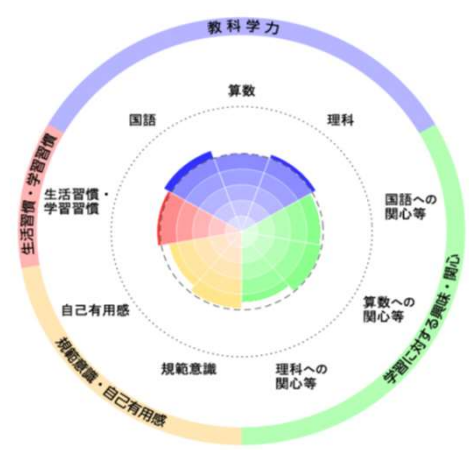
(2)児童質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○話し合い活動を通して自分の考えを深めたり広げたりできていることは、低学年のうちから取り組んできた成果を感じられる。 ●将来の夢や目標を持っている児童の割合が少なく、家庭学習を1時間以上している児童も少ない。	・学習を通していろいろな人と出会う中で、自分の将来について考える時間をつくり、目標に向かって頑張ろうとする気持ちを育てていく。(キャリア教育の充実) ・自学メニューの提示の工夫をしたり、宿題の量の調整をしたりして、家庭学習の時間の充実を図る。

(3)児童質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・昨年度に引き続き、各教科、行事、委員会活動などを通して、相手に伝わる声や話し方、また、意図に合った内容で話す力をつけていく。また、聴く側も意図にそった質問や感想が言えるよう、自分の考えを持ちながら聴く力を育てていく。

【受検者数】
102 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。